



## 桐生市近代化遺産 絹撚記念館

桐生市指定重要文化財・旧模範工場桐生撚糸合資会社事務所棟の修理・改築工事が完了し、桐生市の歴史資料展示施設「桐生市近代化遺産・絹撚記念館」として平成25年4月末から一般公開が始まった。

桐生撚糸合資会社は、明治35年に政府の殖産興業施策により全国6ヶ所の模範工場の一つとして設立された。当時の業界から請われて社長に就任したのが、県立桐生織物学校教諭だった前原悠一郎氏。前原氏の舵取りにより、明治41年には株式会社に、工場も増設され、大正7年には敷地14,315坪、従業員1,000人を超える日本最大の撚糸工場「日本絹撚株式会社」として発展した。現在のJR桐生駅南口一帯の広大な敷地にノコギリ屋根工場を連ねた大工場は桐生織物隆盛期のシンボルであった。同社は画期的な労使一体型経営を導入、充実した厚生施設群は時代を大きく先取りするものだった。

桐生高等工業学校の西田博太郎校長は前原氏の功績を、「自ら技術、経済、教育、衛生、慰安、錬成の各部門を悉（ことごと）く計画し、陣頭に立って親しく指導し、只管（ひたすら）社勢の振興に献身的努力を続け、数次の技術改良、増資等を断行し米沢撚糸工場の買収を初めとし、各地に分工場を設置し、撚糸の輸入防遏（ぼうあつ）時代を脱して輸出縮緬用撚糸の産出に成功し、更に撚糸の輸出に進み、社運彌々（いよいよ）益々隆昌を加えその社名と製品とは世界到る所機業界に普く知らるるに到った」と評している。（日本絹撚株式会社創立四十年史）

しかし、昭和19年に軍需工場となり、戦後は本格的に再建されることはなく、工場は解体された。唯一残されていた同社の事務所棟は解体の危機があったものの、桐生市が保存・継承、平成23年に基本調査を行い、「桐生市近代化遺産・絹撚記念館」として創建時の姿に復元された。

桐生の産業を代表する大工場を偲ぶ記念館は、桐生の縄文時代の出土品や奈良・平安時代の製鉄遺跡、江戸時代から、近・現代までの桐生の歴史的資料の展示施設に生まれ変わった。

現在、企画展として「日本絹撚株式会社の歴史と修復までの軌跡」を開催している。

- 入館料／大人150円 小人50円
- 住所／桐生市巴町二丁目1832-13
- 電話／TEL.0277-44-2399
- 休館日／毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始

日本絹撚の事務所棟  
新たな歴史資料展示施設に